第５回福井県文化芸術推進会議　議事録

日　時　令和８年１０月７日（水）１４：００～１６：００

場　所　アオッサ　６階 研修室６０７

出席者　委　員　※座長（県職員）を除き、五十音順・敬称略

青山直弘、朝倉由希、浅野桃子、内田高義、小畑善敬、小林雅代、坂本紫崖、嶋田浩昌、玉森慶三、友田堅七郎、畑中容子

三武紀子（座長）

オブザーバー

松浦美恵（福井市）、織田一宏（敦賀市）

事務局

福井県　高校教育課　参事（教科・生徒支援）　橋本貴志

義務教育課　主任　浅井綾子

生涯学習・文化財課　課長　松森義郎

文化課　　課長　松田健二　　他

１　開　会

・座長あいさつ

２　議 事

（１）議題１：「福井県文化振興プラン」中間点における主な成果と課題について

［事務局］

・（資料１に基づき説明）

［三武委員（座長）］

・ただいまの説明について、ふくい文化創造センターを設置・運営している福井県文化振興事業団の玉森委員に補足説明をお願いしたい。

［玉森委員］

・（参考資料に基づき説明）

・だれでもピアノを使ったレッスンカフェでは、参加者の皆さんがピアノを弾くことによってコミュニケーションが活発になり、ウェルビーイングに繋がったと感じる。ピアノレッスンカフェに参加した１２人がその後自分たちでサークルを立ち上げ、ハーモニーホールの練習室を使って活動を始めた。

・一昨年から始めた福祉施設へのアーティスト派遣では、２５の枠に対して、６８施設から応募があった。

・アートプロジェクトについては、来年度以降に向けた課題を抽出・検討するため、この会議の青山委員、小畑委員、嶋田委員に評価委員になっていただいて実際にプロジェクトの現場を見ていただいており、アーツカウンシルメンバー以外の意見も取り入れて進めていく。
・「アート茶会」については、毎月福井駅前で開催していたが、１１月に新たに敦賀市でも開催し、地元の方と語り合う予定である。

［三武委員（座長）］
・それでは文化振興プラン中間点における主な成果と課題について、委員の皆様からご意見・ご提案などお伺いしたい。

［朝倉委員］
・新たにふくい文化創造センターができ、伴走支援に従事する人が増えたことで県民主体の活動が広がっていることが目に見えて分かるようになった。取組が進んでいると感じる。若狭など、県民主体の活動の地理的な偏りが課題だったが、嶺南で新しいプロジェクトが始まるのでさらに盛り上がっていくきっかけになるのではないか。
・県立美術館・博物館の改修について、一体的な整備も検討していくということだが、文化施設間の連携は全国的に進んでいる。敦賀でも複合施設が計画されている。これまでは美術は美術という風にジャンルごとに施設を作ることが推奨されてきて、それはそれで専門性を深めるという良さがあったが、それぞれを充実させるよりも複合的・横断的にいろいろな刺激を受けられる場を作っていくことにも意義があり、その点をポジティブに捉えたい。専門性を守っている人からは中途半端になりがちだと批判を受けることもあるが、むしろ一体化して相乗効果を生むことによって県民も県外の人も楽しめる場になることに期待したい。一県民として前向きに考えていきたい。

［内田委員］
・文化とは一体何か、皆さんはどういう共通理解のもとでこれまで話を進めてきたか。スポーツは皆さんよく知っているが、文化というと、福井県文化協議会や福井県文化振興事業団を知らない人が多い。
・個人で活動している人も含めて、文化団体を我々がどうやってバックアップしていくか。その一つがふくい県民総合文化祭だと思う。北陸新幹線開業の半年前に初めて開催し、開業年にも開催した。県から３００万円の補助をもらい、文協が主体となって６００万円の事業を福井駅前のハピテラスという一番いい場所で実施した。呼ばなくてもお客さんが沢山来た。こんな場所でできるといいなと思っていたことを、最初の２年間（２年目はハーモニーホール全館）で経験した。いろいろな分野の団体がコラボするという、今までやりたくてもできなかったことができ、縦だけではなく横の広がりも生まれ、文化とはこうやって広がっていくんだなと思った。２年間の補助事業が終わり、現在は県からの委託事業として行うことになって一番感じたのはお金の問題。３００万円でやるためには会場費などお金が沢山かかるので、６００万円でやっていたときと同

じような文化芸術体験を提供できない。お金と人の問題は、これからもいろいろな場面で直面すると思う。ふくい県民総合文化祭は、県民だけでなく旅行で福井に来られた方にも新しいものの見方を感じてもらうことができ、駅の中でそういうことをやっていると、福井の文化が変わっている、文化の香りがすると思ってもらえると思う。福井は文化度が低いと言われるが、そういうことをやれば雰囲気や空気が変わると思うので、関係者と一緒になって盛り上げていきたい。そのための経済的な支援が必要だと思う。

［小林委員］

・熊川宿若狭芸術祭は今年で４回目になった。今年からコーディネーターが新たに加わったことによって、一緒に街を歩いて紹介してくれるボランティアが生まれ、アートに興味を持った高校生もボランティアとして一緒に芸術祭を盛り上げてくれている。住民や高校生など、興味を持った人と一緒に楽しめたことがとてもよかった。
・まだ周知不足なところがあり、若狭町の人でも見に来ていない人がいるので、広報をしっかりして県内外にもっと打ち出していくと、さらに住民と一緒に文化芸術を盛り上げていけると思う。

［友田委員］

・県立博物館の改修について、一昨年から検討を続けているが、昨今の物価高騰の影響で思った以上にお金がかかることが分かった。そこで博物館を美術館と一緒にすることも方法の一つとして考え、美術館と一緒にする案と博物館単独で改修する案、それぞれどういうメリット・デメリットがあるのかを検討しているところ。美術館と博物館は地理的に近いようで微妙に遠い。それぞれが一緒になると、絵も見れるし、歴史的な資料も見れるという施設になる可能性がある。仏教美術についても、歴史的な観点から見るのか美術品として見るのか不可分 のところもあるのでいい検討の機会である。どっちつかず中途半端にならないように慎重に検討していきたい。

［敦賀市　織田部長（オブザーバー）］

・文化振興プラン関連事業の中で、だれでもピアノレッスンカフェと、福祉施設へのアーティスト派遣事業に興味を持った。垣根を越えていろいろな人が芸術を楽しめる取組みが始まったと感じている。
・敦賀市として一番の話題は氣比の杜の整備構想である。氣比神宮の傍にある北小学校跡地にアートギャラリー、コミュニティセンター、スポーツ等の施設を複合的に作ったらどうかという議論が始まった。今後委員会を開催して検討を重ねていくが、氣比神宮という敦賀の中心的シンボルの場所で、いろいろな分野が重なり合い、我々は「創発」と呼んでいるが、市民や観光客などが交わりながら、いろいろな方の想いやアイデアが発するものを作っていきたい。
・文化振興プランの趣旨もそうだと思うが、敦賀市としても、なるべく低いハードルの中で市民に文化に触れてもらう・参加してもらうことが大切だと考えており、最大３００万円を補助する文化芸術企画支援事業を行っており、今年も４事業を採択した。今年から、ふくい文化創造センターの渡邉ディレクターにも委員に入ってもらっている。また、音楽施設以外の場所でもクラシッ

クが聴ける取組みを行っている「100 万人のクラシックライブ」という団体に市も参加し、今年３月に人道の港敦賀ムゼウムで開催したライブでは、福井県出身のバイオリニストである間脇さんも演奏した。このような気軽に音楽や文化に触れてもらえる事業も積極的に行っていきたい。
・ふくい文化創造センターが「アート茶会」を来月氣比神宮で開催してもらえるのはありがたい。

［福井市　松浦局長（オブザーバー）］
・この前スポーツ大会の開会式に出席したが、高齢者の方も沢山参加していて、９０歳になる方もいた。そのときに話題に上がったのが、企業を定年になるときにスポーツ活動を知るきっかけがあると、仕事を辞めてからの体力づくりや生きがいづくり、友達づくりに繋がるのではないかということ。文化団体に話を聞く機会があるが、活動内容によって年齢構成や人数も違う中で、６０歳になってから始める人も多い団体もあるので、文化についても、企業を退職するときに文化活動をやってみたいと思えるような情報を入手できるきっかけがあると、一歩踏み出せる方がいると感じた。
・福井市でも文化施設の老朽化が進んでいる。LED 化とか施設改修を今後進めていく中で、県が検討している一体的な改修を参考にしていきたい。

［畑中委員］
・多彩な取り組みをしているというのが実感。文化観光の推進について、アート茶会の話を聞いて、我々も同じ PLAYCE で２年前から月１回、観光事業者が自由に集まることができる場を作っている。ずっと福井市で開催していたが、昨年から敦賀でも開催し、今夜は小浜でもやる予定である。観光は横串の産業なので、観光連盟の会員以外の方が「何してるの？」という感じでふらっと来ることもあり、年に何回か文化と観光が合同で集まるとお互いに得るものがあるのではないかと感じた。
・閑散期である平日対策として、学会、全国大会など、国内外の MICE を誘致している。昼は会議をして夜はホテルでパーティーを開くということに飽きているグループもあり、先日、一乗谷朝倉遺跡で鉄砲隊が鉄砲を撃っている中で立食しながらお酒楽しめるという企画をやったが、このようなユニークベニューを助成金で推進している。小浜市の旭座やハーモニーホールなどの文化施設も活用したユニークプランを提案していきたい。
・MICE ガイドブックを毎年更新しているが、載っていない施設も多い。レセプションのときに福井の伝統芸能などが見たいという団体に、左義長祭りや太鼓、JETS などを繋いでいるが、いつも同じメンバーになってしまうので、越のルビーアーティストなども紹介できるとよい。アーティストのリストをいただきたい。

［坂本委員］
・９月に開催したふくい県民総合文化祭では、いろいろな方に見ていただこうと、絵画や書道に２歳の子どもから９０歳過ぎの方まで、幅広い方に作品を出品してもらった。毎年集客数が伸びないのが課題であり、今年は今までやったことのないことをやろうと、会場である美術館の中で歌

をうたったり、琴を弾いたり、鼻笛などの体験をやったりしたところ、楽しそうに俳句づくりをしている親子などもいて、皆さんに楽しんいただけたと思う。このように年代に関係なく多くの方に文化を知っていただけるようにやっていきたいと思っている。文化以外の分野ともコラボするなどして、集客に繋げていきたい。

［浅野委員］

・文化振興プランの折り返し地点ということで、改めてプランを作ってよかったと思うことが多い。個々にやっている取組みはどれもとてもいいことなので、地道ではあるが、福井県に文化振興プランがあることをもっと多くの人に知ってもらうことをやっていくと、「これってこういう未来に繋がるんだよね」という風に共通言語が出来て、場がさらにうまく回るようになると思う。
・集客の悩みの話があったが、福井県を見渡すと、嶺北・嶺南でも、文化活動に参加する人や関係する人は固定化しているように思う。（もっと参加者を広げるためには）プランの中でやっている個々の事業やイベントや講座をネットワーク化して、参加したイベントで別の講座の紹介をするなど、その分野に興味がある人が他の情報も得られるような、横串に繋げていく仕掛けが必要であると感じる。嶺南でのプロジェクトや美術館博物館の改修など、これからみんなで考えたり作っていくことが多いので特にそう思う。
・県の文化は大きな節目を迎えていると感じるので、今がいいではなく、今後もっと楽しくなる、もっとよくなるように、多くの人が考えて作っていくムーブメントが起きるといい。

［事務局］

・本日ご欠席の２名の委員からのご意見をご紹介する。

［松谷委員］

・県立美術館博物館の改修については。県民が歩いて散策できるエリアを作るなど、車社会でも特別な楽しみ方ができ、広い世代楽しめるような施設になるとよい。
・嶺南でのプロジェクトについては、熊川宿芸術祭や各市町のホールなど、点在している文化活動が結集して嶺南全体で強みを発揮し、瀬戸内芸術祭のようにエリア全体を周遊できるようなプロジェクトになるとよい。

［湊委員］

・プラン全体の進め方について、異分野間の連携や文化創造ネットワークをさらに広げていくため、この会議を起点として関心のあるメンバーのタスクフォースなど、フォローアップしていく仕組みがあると具体的な取組みに繋がっていくのではないか。
・嶺南のプロジェクトについては、伝統工芸をはじめ、福井の持つ創造・ものづくりの蓄積・環境を活かすことで特色ある取組みに繋がるのではないか。
・県立美術館の改修については、北信越地域の中で、福井ならではの強み・特色をどこに置くのかを念頭に置きながら改修の方向性を検討していくことが重要である。

（２）議題２：「企業の文化活動促進研究会」最終報告書（案）について

［三武委員（座長）］

・企業の文化活動促進研究会の最終報告書案について、座長ある朝倉委員からご説明をお願いしたい。

［朝倉委員］

・（資料２に基づき説明）

［三武委員（座長）］

・ただいまの説明について、ご意見・ご提案などあればお願いしたい。
・経済団体として、嶋田委員はどうか。

［嶋田委員］

・それなりに文化活動に触れてきたつもりだが、依然として文化とは何か、芸術とは何かという答えが出ていない。評価委員としてアートプロジェクトを見ることになり、少しその答えが見えた気がする。人間の根源的な問いとして「私は誰」という問いがあり、その答えを探す行為の一つがアートプロジェクトだったり、普通の人にとっては言葉だったり、筆の立つ人は文学だったり、楽器が弾けたり声がきれいな人は音楽だったり、身体を動かすのが得意な人はダンスだったり、人それぞれの方法によって「自分が何者であるか」ということを表現したいんだろうなと思いながら見ていて、そういう活動を支援するのが企業の役目だと感じている。
・「さばえまつり」を見て感じたのは、性別、年齢、職業関係なく自由に表現しているということ。奇抜で理解できないように見えても本人たちはまじめに取り組んでいて、そういう行為が広がっていくと世の中が楽しくなったり、豊かになったり活発になると思う。あまり理屈をこねるとアートはつまらなくなるので、理屈抜きに応援していくくらいがちょうどいいのではないかと思う。先日、文化振興事業団が発行している「ブンカ」を読んでいたら、芸術文化アドバイザーの森司氏の記事が載っていた。その中でなるほどと思ったので紹介したい。
（記事の紹介）
企業がお金を出して支援するとなると理屈を求めがちだが、活動者と一緒に考えながらやりましょうというくらいのスタンスで付き合うのがいいと思う。

［三武委員（座長）］

・研究会の事務局を担当した玉森委員はどうか。

［玉森委員］

・嶋田委員が言った通り、答えがないので、参加企業は最初もやもやしたかもしれない。しかし今は、アートプロジェクトは大事ということを共通認識として持ったと思う。

・最終報告書の１８ページに当事業団のやることが書いてある。中間支援機能として企業とアーティスト・文化団体との橋渡しをすること、これがいま求められていることだと思う。嶋田委員に「さばえまつり」と「味真野お寺びらき」のアートプロジェクトを見てもらったが、（担い手の方に）もっと我々に協力を求めてほしいと思っていた。必要な情報を伝達することが我々に求められていると思うので、アーティストと企業、双方の立場に立って動いていきたい。
・当事業団のほか、文化活動への助成を行っている三谷市民文化振興財団、げんでんふれあい福井財団、福井県民生活協同組合のネットワーク「ふくい文化活動助成団体ネットワーク」を去年作った。助成金の利用促進を図り、よい文化活動に使ってもらえるようにしていきたい。
・企業は数字やメリットを求める。ハーモニーホールのコンサートも企業から協賛金をいただいて運営しており、企業を回っていると「うちのメリットは何ですか」と問われる。小学生の招待シートなど、会社の名前が出るのならやりたいとかいろいろなニーズがあるので、できることからやっていきたい。

［三武委員（座長）］
・企業の立場からはどうか。

［小畑委員］
・最終報告書案はよく検討していると感じた。企業アンケートで「企業として文化活動を行う必要がある」と７５％が回答しており、そのとおりだと思う。報告書の冒頭に、感性や想像力を培うのが文化であり、それが変化の激しい時代の中で企業の力になるという趣旨のことが書いてあるが、いろいろな経営者と話をしていると、感性とか想像力がないと生き残れない時代になっていることはみんな感じていると思う。これを経営者自身だけでなく、従業員や組織にどう浸透させていくかが大きな課題。分かってはいるがなかなか浸透しないのが現実。組織内で分かりやすく繰り返し唱えていく必要があるが、企業単独でやっていると続かないので、文化振興事業団などが応援団になると続くのではないか。文化振興プランの事業もそうだが、続けていくことの難しさ・大事さを共有できるといいと思う。

［青山委員］
・私の会社は文化活動に溢れており、どのように整理していくか社内で議論しているところ。例えば書道で言えば書初め競書大会は今年で９１回目になり、美術の分野では福井県総合美術展に昭和２７年からずっと関わっている。幼児画や障がい者アートもとても大事だと思っているし、棟方志功展を契機に４０年くらい前から始めた版画コンクールによって、大人も子どもも版画をやっている地域、新聞社は全国的に珍しいと思う。
・企業と文化活動と言うと、協賛金、作品購入、資金援助、会場の提供など物理的なことも大事だと思うが、企業の存在そのものが文化というのが福井にはたくさんあり、例えば漆器や包丁など優れた技術を持っている企業が多い。福井にデパートが必要だと思うならデパートを応援することが求められるように、食器を使うときはプラスチックをやめてなるべく越前焼や越前漆器など

の地域のものを使うとか、企業の中で日頃の生活に目を向けて地域のものを大事にしていこうという方向に持っていくのが私の会社の課題である。
・スポーツにもいろいろな形で関わっているが、ソフトボール大会や軟式野球大会などに企業チームが多く参加している。そういう風に、会社が集まった文化祭ができると面白いと社内で話題にしている。
・個人としても企業としても文化にまみれることはいいことであり、文化振興事業団などが地元で活動している方の間に入って接着剤として働いてくれると企業も動きやすくなると思う。

［事務局］
・本日ご欠席の２名の委員からのご意見をご紹介する。
［松谷委員］
・私が活動している京都では、ローム株式会社がミュージックファンデーションという組織を作って若手の音楽活動を支援しており、入社式等で研鑽を積んだ音楽家による演奏会を実施することによって社員が自社は文化活動を推進しているという認識や誇りを持っている。
・提案４の作品購入や提案８の文化活動の発信について、まずは社員に理解してもらい、文化活動を推進している会社だと社員が自信を持って言えることが大切である。
［湊委員］
・企業の文化活動を促進するためには、まずは社員に理解してもらい進めることが大事。
・提案６の文化活動団体と企業を繋ぐ仕組みについては、具体的な地域課題と企業を結びつけることがよい。例えば、今後部活動の地域展開が進むという課題に対して、文化活動団体や企業、地域の人材などが一緒になって新しい活動の受け皿を作るなど、文化芸術に触れる機会を地域全体で支える仕組みの中に企業を入れていくことが大事である。
・企業による文化活動の促進の結果・目的を、個々の企業のブランド価値の向上に求めるのではなく、福井県全体が文化的・創造的な価値を高めるために活動を促進していくという観点を持つことが大切である。

（３）議題３：令和８年度学生ワーキンググループについて
［三武委員（座長）］
・昨年度から本会議に設置した学生 WG について、今年度の活動予定等について事務局から説明する。

［事務局］
・（資料３に基づき説明）

［三武委員（座長）］
・学生ＷＧの活動について、ご意見等ありましたらお願いしたい。

［委員］

（特に意見なし）

［三武委員（座長）］

・本日は、各委員から大事な意見・提案をいただいた。
・質の高い文化芸術発表をやるには資金が必要であり、活動を応援する仕組みが必要という意見があった。
・熊川宿若狭芸術祭など各地で文化イベントが開催されているが、参加者がなかなか集まらないということで、情報発信の方法などを工夫して、県内のイベントを皆さんに周知する仕組みが必要ではないかという提案があった。
・アート茶会について、観光協会の方でも観光事業者が集まって情報交換する機会があるので、文化と合同でやることで文化観光の取組みが広がっていくのではないかというご意見もあった。コンベンションに出演できる文化団体やアーティストを紹介してほしいという要望があったが、文化振興事業団の HP などでも分野別に団体やアーティストを紹介しているが、コンベンションに出演できる方がいたら個別に紹介させてもらう。
・会社を定年になるときに、地域にどんな文化活動があるのかを知ることができる機会があるといいのではないかという提案があったが、福井県文化協議会が文化団体の冊子を作っていたりするので、そういった情報を企業に案内していく仕組みがあるといいと思った。
・文化施設の改修については、高校生など若い世代も含めて、県民が気軽に利用できる、入りやすくなるような施設になるように進めていきたい
・企業が集まった文化祭をしてはどうかという提案があったが、企業対抗の運動会やリレーなどは県内にあるが、文化の大会はなかなかないので、できると面白いと思った。
・企業と文化団体を繋いで活動を大きくしていく方法として、文化振興事業団がマッチングなどの接着剤の役割を担っていただきたいという意見もあった。
・その他さまざまなご意見・ご提案をいただき感謝申し上げる。
・本日の議事はこれですべて終了した。委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただき、感謝する。

［事務局］

・湊委員の意見にもあったように、本日いただいた意見・提案については、フォローアップの仕組みを考えて、施策への反映を検討していきたい。
・次回の会議は来年３月を予定している。令和８年度の実績報告や、令和９年度の取組みについて意見交換をしたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

３　閉会